

Topics

「スズキ・メソッド 国際教養大学（AIU）での取り組み アンサンブル」を授業科目に 会長 中嶋 嶺雄

「耳から聴いて覚え、暗譜して繰り返し練習する」というスズキ・メソッドは、幼児の音楽教育のみならず、外国語の習得にも適応すると私は主張してきましたが、このスズキ・メソッドをわが国の高等教育にも導入したいという念願をかねて抱いていました。

専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科が昨秋発足したときに、「発信力領域」の授業の一環としてできないものかとも考えたのですが、国際教養大学（AIU）にはまた至内楽団がないこともあってこのたび学部の教養科目中心の基礎教育の授業科目の一つとして2009年秋季学期から「音楽実技（スズキ・メソッドアンサンブル）」がスタートするようになりました。

開学4年が過ぎ、5年目から大幅なカリキュラム改革を実施したばかりでしたので、事務的には若干問題があったのですが、「芸術・芸術論（音楽と演奏）」担当の特任教授・渡辺玲子さん（本学理事）の強い推進もあって実現にこぎつけ、カリキュラムを審議する教育研究会では、メンバー全員の積極的な賛同を得ました。

この科目のシラバス（授業概要）は左ページに示したとおりです。大学設備標準によつて実験・実習などの実技科目は、外国語科目と同様に1時間×15週＝1単位（講義・演習科目は30分×15週＝3単位）ですので、この授業は1 semester（学期）1単位ですが、実際の授業（練習）は音楽実技またはレクチャー・ホールで金曜日の夜8時から2時間前後行います。

インストラクターには、秋田アトリオン・ホール至内楽団のコンサート・ミストレス 安部慶子さん（東京藝大ヴァイオリン科卒、米ペンシルヴァニア州立大学院留学）に担当いただいたことになり、私もスズキ・メソッドの理論と「哲学」を講義します。渡辺玲子さんも随時指導に当たります。

私たちの大学はすべての授業を英語で行なっていますので、この授業も基本的には英語ですが、言語がバリア（障壁）ではなくブリッジ（架け橋）になっているAIUとして、橋樑校の米 Inaca College（イサカカレッジ）をはじめ、アメリカではミネソタ大学、ニューメキシコ大学、テネシー大学などリベラル・アーツ重視の大学を中心にスズキ・メソッドを取り入れている大学

が多いので、将来的には大学間交流にも役立てたいと思っています。

さて、肝心の学生たちですが、去る7月初旬にこの授業のスタートを全学年にメールでお知らせしたところ、約30名もが7月13日の第一回の予行演習に集まりました。なかにはフルツフのヴァイオリン協奏曲を弾くという学生もいましたが、スズキ・メソッドでも巻子でやって受験で中断していたという新入生やチェロ、ヴィオラの弾ける学生もあり、まず楽器を持参した学生全員で渡辺玲子さんと安部さんと私も加わり、パッヘルベルの「カノン」の楽譜を配ってフルートやクラリネットも加わってともかく演奏してみてもらったところ、皆が初めてなのに、何と終わります、全員で弾けたのです。私はとても感激しました。

ヴァイオリンは初めてという学生やピアノ、管などの学生もいますので、まず弦をまとめて、次にピアノや管にも加わってもらつてもいいです。第2回目の予行演習もやりましたが、いずれにせよ、この秋からの授業が楽しみです。

私たちの大学はすべての授業を英語で行なっていますので、この授業も基本的には英語ですが、言語がバリア（障壁）ではなくブリッジ（架け橋）になっているAIUとして、橋樑校の米 Inaca College（イサカカレッジ）をはじめ、アメリカではミネソタ大学、ニューメキシコ大学、テネシー大学などリベラル・アーツ重視の大学を中心にスズキ・メソッドを取り入れている大学

基礎教育 Basic Education

社会科学

社会学
政治学
心理学
文化人類学
環境科学
地理学(自然・文化)
世界史
比較文化論
人口学
ビジネスと経済学の世界
経済学原理ミクロ
教育制度論
日本国憲法と法
社会科学：思潮と理論
社会科学留学科目

芸術・人文科学

美術史
美術
世界における日本の美術
音楽史
芸術・芸術論(音楽と演奏)
スズキ・メソード アンソナル
英語文学
英文学と詩の世界
英米民俗文化論
文明と思想文化
西洋思想文化
東洋思想文化
科学史
映画学概論
日本の伝統芸能
東洋文化入門
秋田文化入門
芸術・人文科学留学科目

数学・自然科学

生物学入門
生物実験
化学入門
化学実験
物理学入門
物理実験
教養数学
代数学
微積分学
統計学
数学・自然科学留学科目

保健体育

保健体育講義
体育実技I
体育実技II
体育実技III
体育実技IV
レクリエーションI
レクリエーションII

コンピューター、キャリア、留学

コンピューター・リテラシー
キャリア・デザイン
インターシップ
留学セミナー
オリエンテーション

左は国際教養大学のカリキュラムの一部。基礎教育の芸術・人文科学分野にスズキ・メソードアンサンブルのタイトルがある

国際教養大学の授業はすべて英語で行なわれる。したがって、配布される資料も英語となる。ここで紹介した日本文は、下の英文の邦訳

MUSIC PRACTICE (Methods) Worksheet

MUS 251 (1 credit)
Credits: 150/150-150
Music Studio
14 weeks

Instruction (Faculty)
Lecturer: Adam J. Cocks, Scott Brindley (by consent), Julia Wainwright (by consent),
Tutor: Iain
The course is open to all eligible students.

Course Description:
This is an advanced language program for students who, in previous semesters, have completed MUS 150. It is designed to provide students with a practical and theoretical understanding of the Suzuki Method and its application in the classroom. The course will focus on the development of technical skills and the understanding of the Suzuki Method. The course will focus on the development of technical skills and the understanding of the Suzuki Method.

What the student should be able to do: Students should be able to play the piano and understand the Suzuki Method. They should be able to play the piano and understand the Suzuki Method.

Objectives:
Participate in a Suzuki 100 series.

Study Materials:
• SUZUKI MUSIC BOOKS VOL. 1 & 2 (Shirataki Publishers Ltd.)
Author: Shin-ichi Suzuki
• SUZUKI MUSIC BOOKS VOL. 3 & 4 (Shirataki Publishers Ltd.)
Author: Shin-ichi Suzuki
• SUZUKI MUSIC BOOKS VOL. 5 & 6 (Shirataki Publishers Ltd.)
Author: Shin-ichi Suzuki
• SUZUKI MUSIC BOOKS VOL. 7 (Shirataki Publishers Ltd.)
Author: Shin-ichi Suzuki

Prerequisite:
The student must have completed MUS 150 and be recommended by the instructor for entry into this course.

Assessment: Final exam (written and practical)

Course Outline:

Week 1: Introduction to the Suzuki Method
Week 2: The Suzuki Method
Week 3: The Suzuki Method
Week 4: The Suzuki Method
Week 5: The Suzuki Method
Week 6: The Suzuki Method
Week 7: The Suzuki Method
Week 8: The Suzuki Method
Week 9: The Suzuki Method
Week 10: The Suzuki Method
Week 11: The Suzuki Method
Week 12: The Suzuki Method

音楽実技 (スズキ・メソード アンサンブル) シラバス

科目コード： MUS 201 (1 単位)

日時： 金曜日 19:50—21:30

場所： 音楽室
週： 14 週

担当教員：

安部慶子 (非常勤講師)、中嶋嶺雄 (教授)、
渡辺玲子 (特任教授)
必要に応じて外部講師を招聘

授業概要：

音楽は世界共通言語である。楽器を演奏することで他者とコミュニケーションする強い能力を演奏者に与える。この技能は多くの学生にとって、卒業後も貴重なツールとなる。室内楽に参加することで、学生は友人と音楽を楽しく学ぶために協力することになる。

この授業は音楽を専門に専攻する学生のために開講されるわけではなく、どのレベルの学生でも、本学の室内楽で音楽を楽しみたいという学生すべてが対象となっている。室内楽団参加希望者、ヴァイオリン演奏希望者、他の楽器演奏希望者の本授業受講生は、スズキ・メソード指導曲集と教本『バイオリンランド』の2つの学習方法を利用する。後者の教本は指導教官である安部慶子先生が著者。

この授業にはスズキ・メソッドの基本的な理論や哲学に関する講義や討論も含まれるが、中心は演奏実技の授業である。最終目的は AIU 室内楽団として演奏すること。ぜひ AIU 室内楽団へご参加ください。

目的：

大学の行事で演奏することを目的とする。

教材：

鈴木嶺一著『スズキ・メソード 鈴木嶺一ヴァイオリン指導曲集』1巻～3巻 (全音

楽譜出版社)

- ・安部慶子、榎原涼子著『バイオリンランド』1～3 (音楽之友社)
- ・安部慶子編『こどものバイオリン名曲集』(音楽之友社)
- ・中嶋嶺雄著『音楽は生きる力』(西村書店)

受講要件：

楽器演奏の経験の有無は問わない。弦楽器もしくは管楽器を演奏したいという興味がある学生が対象。楽器を所有している場合は持参のこと。

授業評価： 出席による評価

授業スケジュール：

第1 週から第4 週
(9月4日、5日、18日、25日)

- ・パツェルベルの「カノン」の演奏を通じての技術的かつ芸術的な学習
- ・『スズキ・メソード 鈴木嶺一ヴァイオリン指導曲集』1巻よりパツェルの「メヌエット1番、2番」(合奏4パート)
- ・『バイオリンランド』1巻1、2
- ・正しい呼吸法と運弓法について
- ・初心者のための note の読み方
- ・2巻の29ページのレッスン5までの学習と演奏

第5 週 (10月2日)

中嶋先生による講義

「スズキ・メソッドとは?—その哲学と学術的アプローチについて」

第6 週から第8 週

(10月9日、16日、23日)

- ・『スズキ・メソード 鈴木嶺一ヴァイオリン指導曲集』1巻よりパツェルの「メヌエット3番」(合奏用)
- ・『バイオリンランド』2巻43ページのレッスン6から8まで

第9 週から第11 週

(11月6日、13日、27日)

- ・『スズキ・メソード 鈴木嶺一ヴァイオリン指導曲集』2巻よりゴッルク・フリードリヒ・ヘンデルの「合唱・ユダスマカベウス」(合奏用)
- ・『バイオリンランド』2巻のレッスン9と10「さくらさくら二重奏」および「さらさら星三重奏」
- ・『こどものバイオリン名曲集』より「おじいさんの古時計二重奏」

第12 週から第14 週

(12月4日、11日、18日)

- ・『バイオリンランド』1より「きよこの夜」楽譜部分
- ・「クリスマスのためのバイオリン二重奏」(G. Schirmer 社)
- ・パツェルの Marcia BWV 131 「主よ、深き淵よりわれ汝を呼び、Aria BWV 517 「なにくえに悲しむや、わがが」
- ・パツェルベルの「カノン」復習

全国指導者研究会

先生たちの真剣学び場



最終日に行なわれた弦楽指導者による演奏は圧巻だった。ヴァイオリンの2パートが客席に降り、舞台上はヴィオラとチェロという配置で、新鮮な響き。モーツァルトの弦楽四重奏曲第15番ニ短調K.421の第1、3楽章が演奏された

全国の指導者たちが一堂に会し、精力的にレッスンや研究発表、意見交換に励む全国指導者研究会が、今年も浜松で5月25日～28日に開催されました。ヴァイオリン・ピアノ・チェロ・フルート、そしてヴィオラ科の指導者たちの様子を紹介します。



ヴァイオラ奏者、川本嘉子さん（東海地区・牧野千世先生クラス出身）を囲んで、昨年誕生したばかりのヴィオラ科担当の先生方と記念撮影



「グローバル化とスズキ・メソッド」と題された中嶋福雄会長による講演では、「発進力」が重要であること、メルボルンの世界大会の感想など、示唆に富んだお話をいただいた

Suzuki Method

才能教育 No.169 秋 2009

第 60 回を迎えた夏期学校

マンガ版 鈴木鎮一物語 第 17 回 (最終回) 永遠の輝きを求めて



特集

スズキ・メソッドの
指導者養成